

34. ^{201}Tl の摂取を認めなかった縦隔腫瘍の1例

久保田昌宏 大久保 整
 湯川 元資 森田 和夫
 高橋貞一郎
 (札幌大・放)
 黒崎 和夫 村山 憲一
 今野 晋作
 (同・中X)

症例は、64歳、男性、右頸部腫脹および右上縦隔異常陰影の精査のため来院。大動脈瘤または縦隔腫瘍の疑いで大動脈造影が行なわれたが、大動脈瘤なく、上大静脈造影では上大静脈閉塞所見あり縦隔腫瘍と診断され、手術が行なわれた。手術所見では、心嚢内に限局した易出血性の腫瘍で右心房、大血管に癒着していた。約80%の腫瘍が摘出された。病理組織所見では毛細管網の発達した腺癌であった。術後腫瘍は再び増大し術後33日で死亡。剖検は行なわれなかった。術前に行なわれた ^{201}Tl によるスキャンでは、血流が豊富な腫瘍にもかかわらず、集積も認めなかった。術後行なわれた ^{67}Ga によるスキャンでは、腫瘍に著明な集積を認めた。本症例は ^{201}Tl が大動脈瘤と縦隔腫瘍の鑑別診断に有要ではなかった1例であった。

35. 悪性リンパ腫の ^{67}Ga シンチグラフィとリンパ管造影の比較検討

大久保 整 久保田昌宏
 湯川 元資 森田 和夫
 高橋貞一郎
 (札幌大・放)
 黒崎 和夫 村山 憲一
 今野 晋作
 (同・中X)

悪性リンパ腫で ^{69}Ga シンチグラフィとリンパ管造影を行なっており、両検査間隔が1カ月以内の症例14例につき比較検討した。

^{67}Ga , 5 mCi 静注 48 時間後に、全身のシンチグラフィを行なった。

リンパ管造影では14例中4例に異常を認め、この内3例に ^{67}Ga の異常集積を認めた。他の1例は ^{67}Ga 検査時 tumor に 100 rad 照射されているためか、Ga の集積は認めなかった。リンパ管造影で正常と診断した部は Ga の集積を認めず、また Ga にて陰性であった部はリンパ管造影で異常と診断されても、その後変化を認めなかった。

以上より悪性リンパ腫にリンパ管造影と共に Ga シンチグラフィを行なうことは、診断精度を高め、非常に有力な検査であるので、ここに報告した。